

福井県嶺南地域流域検討会【第28回】 議事概要

日時：平成30年3月20日（火）14:30～16:30

場所：若狭町中央公民館 2階ホール



◆ 委員からの意見（■：委員，□：河川管理者）

1 早瀬川水系の河川整備について

- 前回の計画と比較して、道路嵩上げがなくなっている理由は。
 - 平成25年9月台風18号の被害を受け、道路管理者で道路嵩上げを実施したため。

- 前回の計画と比較して、湖岸堤嵩上げが不要となった箇所があるが、その理由は。
 - 精査した結果、舟の出入りのため開口部であるため、閉じなくてよいと判断したため。

- 計画高水位を上げることにより、湖岸堤の嵩上げ区間は長くなるが、放水路の容量を小さくできるなどどのような効果があるのか。
 - トンネル断面を小さくでき、コスト縮減が図れる。

- 浮遊物質が岩礁に堆積し、海藻や貝類に影響があるのではないか。
- 三方五湖治水対策環境影響検証会議では、冬季風浪により拡散するが、どのくらいの被害が出るのか定量的にわからないという結論であった。
- シミュレーションでは海底の凸凹が平均化され、結果が現場を再現できているか疑わしい。放水口の形状等を検討し、被害を最小することを検討されたい。
- 薄くある程度の領域に堆積した土砂が拡散するか不明であり、それがワカメの生育にどう影響を与えるか合意形成の問題となってくる。
 - 検証会議で示した資料は、放水路出口で浮遊物質5mg/l以上となる日数が2日以上継続しないという結果であり、堆積土砂については今後検討していきたい。

- 湖岸堤の整備イメージ (p46) に自然再生協議会でも議論しているような環境に配慮した具体的な整備内容がわかるように記載した方がよい。
- 整備計画 (原案) p18 「3.3.3 河川環境の整備と保全に関する目標」に「特に、下流域の湖部においては、かつて見られた浅瀬やヨシ原といった水辺移行帯などの、水際部の植生環境の再生を図り」と、求める機能を記載しているが、わかりやすい表現を検討する。

- 河川環境の整備と保全について、「海洋環境の保全」に関する文言を基本方針 (案) に加えてはどうか。整備計画だと工事完了とともに考え方が薄れてしまうことが考えられるため、基本方針で記載した方がいい。
- 海域は河川計画から外れるが、SS の影響など地元との合意形成を図る中で対応していきたい。河川整備計画 (原案) P25 に「学識経験者の助言を受けながら、環境への影響が小さくなるように努めます。」と幅広く海域への濁りの流出といったことを含めて記載している。基本方針に記載するかは、他事例を参考に検討する。

- 整備計画 (原案) p25 で「外来種については、関係機関と連携して移入回避や、必要に応じて駆除等に努めます。」とあるが、調査や継続的なモニタリングが必要であり、定期的を実施することを記載した方がよい。特に外来種に関しては、常にモニタリングするのが、常套手段となる。
- 整備計画 p25 に「河川に生息する多様な生物について定期的な調査を実施のうえ、データを収集・整理し、生息・生育・繁殖状況の把握に努めるとともに、河川工事に際しての配慮事項などを検討するうえでの基礎資料とします。」と記載しており、外来種の侵入状況は、この調査により把握していくことを考えている。他事例を含めて外来種に着目して記載するか検討する。

- トンネルができればもう大丈夫という気持ちになりがちであり、トンネル建設後の最初の危機的な豪雨の時にこれまでと違う対応になるため、心理的な部分が、危機管理に非常に影響してくる。ある程度ハード面で整備をするが、やはり水害はあるという地域住民の危機意識の中に定着させていく仕組みが必要と考える。
- 整備計画 p12 に、想定を上回る洪水発生の可能性があり、その対応の必要性があると記載しているが、何をやるかは具体的に記載されていない。計画を上回る若しくは整備途上の影響についても共有していく主旨のことが記載できるか他事例を参考に検討する。また湖の上流に位置する鱒川は、水位周知河川ということで情報を提供している。そのことも合わせて、検討していきたい。

- 維持流量は足りているのか。
- 鱒川が一番上流端だけ元々足りない区間があるが、その区間以外は満足している。

- 「ハス」の記載が消えているのはなぜか。近年確認されていないが、絶滅種として認定はしていない。他に少なくなったイチモンジタナゴとかイトヨは記載されているが、ハスが削除されている。ラムサール条約登録湿地の指定を特徴づける魚類としては、一番重要であり、明記していただきたい。「絶滅の可能性はある」という文言でもいいから残した方がよい。
- 「ハスは近年の調査では確認されておらず」「絶滅の可能性はある」と記載していたので、絶滅し

たとえられる可能性があるため文章を削除した。整備計画 p2「環境の特色」として、「ハスやイチモンジタナゴ」と記載している。今回の意見を踏まえて、記載方法を検討する。

- 「タモロコ」は「タモロコ三方湖産」ということで地域個体群とされたので修正が必要。
 - 「クルマサヨリ」は絶滅危惧種から外されたので、基本方針から削除されたと思われるが、整備計画に反映されていない。
 - 「イトヨ日本海型」も絶滅危惧種であることを明記する。
 - 修正する。
-
- 防災計画（タイムライン等）を作成する上で、水月湖や久々子湖の水位や潮位・波高の観測データを収集した方が良い。
 - 世久見湾に放流した時の浮遊物質（SS）も、湾の形状や風向きによって波高とか水位の上昇量が異なることから、潮位観測することで、水月湖と世久見湾での水位差を確認し、放水路の形状や高波浪時にどう制御するか、浮遊物質が沈殿する前に拡散するのかなどを検討していただきたい。
 - 設計と危機管理に影響するので、今後、検討していく。